

(別紙様式3 別紙1)

## 研究結果説明書

### 1. 事業の実施期間

令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日

### 2. COREネットワークの構成

(1) COREネットワークの名称：みやぎDUAL-COREハイスクールネットワーク

(2) COREネットワークを構成する高等学校等

①宮城野高校(配信校)

②田尻さくら高校(配信校)

③貞山高校(配信校)

④岩ヶ崎高校(受信校)

⑤中新田高校(受信校)

⑥柴田農林高校川崎校(受信校)

### 3. 調査研究結果の概要

(1) 「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組

(受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。)

イ 遠隔授業研修会①を実施。

期日：令和5年4月4日(月)

内容：講義・演習①「授業における効果的なICTの活用」

講義・演習②「Google Classroomを活用した課題の配信・提出〔生徒側〕」

講義・演習③「Google Classroomを活用した課題の配信・提出〔教師側〕」

講義・演習④「Google Workspace for Educationを活用した教科等横断的な学習の事例」

講師：宮城県石巻西高等学校 教諭 尾形 大

ロ 遠隔授業研修会②を実施。

期日：令和5年7月11日(火)

内容：講義「ポートフォリオを活用した学びについて」

講師：東北学院大学文学部 教授 稲垣 忠 氏

実践紹介「一枚ポートフォリオ評価(OPPA)を活用した授業の実践について」

講師：埼玉県立春日部女子高等学校 教諭 中谷 勇志朗 氏

ハ 遠隔授業研修会③兼遠隔教育成果発表を実施。

期日：令和5年9月7日(木)

内容：遠隔授業参観(田尻さくら高等学校からの配信)

授業者 田尻さくら高等学校 教諭 鈴木 歩

教科等 理科「科学と人間生活」

対象生徒 中新田高等学校 3年

話題提供及び協議

(イ) 授業者自評 (5分程度)

(ロ) 話題提供及び協議 (30分程度)

テーマ「遠隔授業における協働的な学びとICTの活用について」

話題提供者 配信校 田尻さくら高等学校 担当者

受信校 中新田高等学校 担当者

(ハ) 高等教育機関の先生方からの指導助言及び振り返り (40分程度)

指導助言 宮城学院女子大学 准教授 舛井 道晴 氏

ニ 広島県教育委員会の遠隔教育システムに係る学校視察を実施。

期日：令和5年6月19日(月) 広島県教育委員会事務局 学びの変革推進部

高校教育指導課 意見交換

20日(火) 広島県立福山誠之館高等学校視察

広島県立油木高等学校視察

21日(水) 広島県立東城高等学校視察

内容：(イ) 広島県での遠隔教育の推進状況・推進体制について

(ロ) 管理機関の支援の在り方について

(ハ) 遠隔操作システム及び生徒1人1台端末の活用とその実践について

(ニ) 視察校における授業参観

(ホ) 校内の推進体制について

(ヘ) その他

訪問者：宮城県教育庁高校教育課 主幹 熊谷 恭

主幹 岡田 康佑

宮城県公立高等学校教員6名(配信校3名、受信校3名)

ホ 受信校活動報告会兼生徒交流会を実施。

期日：令和5年12月16日(土)

内容：みやぎのこども未来博ポスター発表会にて、本事業の活動について報告し、  
また生徒同士で探究活動の内容等について交流。

ヘ 遠隔教育成果発信として特設サイトの作成。

内容：遠隔授業の事業成果及び課題について、特設サイトを作成し、掲載。

URL：<https://sites.google.com/gs.myswan.ed.jp/dual-core>

(2) 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

- イ 高等教育機関（大学）、配信校、受信校がつくる学校コンソーシアム、行政機関（教育庁高校教育課）を構成員とするコンソーシアム（みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム）を組織し、連絡・調整会議を3回開催し、学校間連携を図った。
- ロ 配信校、受信校の各校を担当する指導主事を配置し、学校コンソーシアムへの参加、学校間の連絡調整、教育委員会と学校間の情報共有を行った。
- ハ Google Classroom を活用して配信校と受信校間の連絡調整を行う体制を整え、各種資料の共有を図った。
- ニ 受信校と配信校で互いに教員を派遣し、生徒の実態把握や情報交換を行った。
- ホ みやぎこども未来博にて、他校の生徒と探究活動及び研究活動の成果や課題について対面で交流を図るとともに、相互にフィードバックを行った。本事業受信校の生徒だけではなく、SSH 指定校や地域との協働による高等学校教育改革推進事業の指定を受けていた学校等に在籍する生徒とも交流することで、自身の探究活動を振り返り、さらに探究を高度化、自律化させる良い機会となった。
- ヘ 高校生フォーラムにおいては、「私たちの志と地域貢献」をテーマに各学校で実施した地域探究活動や地域の連携した教育活動についてポスター発表するとともに、代表校発表では中新田高等学校の代表生徒4名が探究の成果を発表し、また全体ディスカッションではパネリストとして岩ヶ崎高等学校の代表生徒が自身の探究活動の成果を基に他校の生徒と討議した。

(3) 市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

イ 岩ヶ崎高校の取組

○学校コンソーシアムの活動

- ・学校コンソーシアム会議 3回実施
- ・総合的な探究の時間の探究活動発表会における指導助言 4回実施
- ・探究型学習に係る講演会（1年生対象） 1回実施
  - ※これから「総合的な探究の時間」で課題を立て研究を進める上でヒントになる講話をコンソーシアム構成員である大学教員からいただいた。
- ・探究力養成講座（1、2年生対象） 1回実施
  - ※これから必要になる探究的な視点をコンソーシアム構成員である大学教員及びゼミ生を招聘し、講話と実践事例を紹介していただき、これからの学習活動に役立てた。

ロ 中新田高校の取組

○学校コンソーシアム活動

- ・学校コンソーシアム会議 6回実施（部会を含む）

- ・「地域に貢献する人材」についての共通理解
- ・全国募集の実施
- ・令和5年度より学校設定科目「地域創造学Ⅰ」（学校設定教科「地域産業学Ⅰ」「地域スポーツ学Ⅰ」「地域防災学Ⅰ」）を新設・開講
- ・総合的な探究の時間（特に1学年「加美町研究」）の探究活動への協力
- ・学校評価アンケート結果に関わる検討

#### ハ 柴田農林高校川崎校の取組

##### ○コンソーシアム活動

- ・学校コンソーシアム会議 2回実施
- ・探究活動発表会 3回実施
- ・総合的な探究の時間「カワサキクエスト」活動への指導助言
- ・各連携団体活動

#### ニ 探究活動研修会の実施

##### ○第1回 期日：令和5年6月28日（水）

内容：趣旨説明

講師：高校教育課教育指導第二班 主幹 田畑 洋行

成果発表①「カワサキクエストについて」

（地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働  
ネットワーク構築事業（CORE ハイスクール・ネット  
ワーク構想））

講師：宮城県柴田農林高等学校川崎校 教諭 山口 裕之

成果発表②「探究活動を通して成長した資質・能力と、成長を  
促した活動について」（SSH）

講師：宮城県仙台第三高等学校 教諭 板橋 淳

情報提供（県内の探究活動に関する情報提供）

講師：生涯学習課社会教育推進班 課長補佐 高橋 亮  
株式会社オーナー

代表取締役社長 佐々木 敦斗 氏

ワークショップ「探究を自律化させていくためのテーマ設定と  
その支援」

講師：認定NPO法人カタリバ

##### ○第2回 期日：令和5年10月20日（金）

内容：事例紹介・生徒研究発表「探究の取組紹介」

講師：宮城県宮城第一高等学校 教諭及び代表生徒

ワークショップ「探究を高度化させていくための支援」

講師：認定NPO法人カタリバ

○第3回 期日：令和6年2月1日（木）

内容：事例発表①「ひがまつプロジェクトについて」

講師：宮城県東松島高等学校 教諭

事例発表②「地域貢献プロジェクトについて」

講師：宮城県佐沼高等学校 教諭

事例発表③「日本史とデータサイエンスを組合せた教科探究」

講師：宮城県仙台第三高等学校 教諭 佐藤 和道

ワークショップ「校内ロールモデルの発見とその活用」

講師：認定NPO法人カタリバ

#### 4. 調査研究の実績

##### (1) 実施日程

月	実施内容
令和5年4月	各学校での遠隔授業受信開始 中新田高校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校設定科目「地域産業Ⅰ」授業開始</li> <li>・学校設定科目「地域スポーツ学（カヌー）」授業開始</li> <li>・学校設定科目「地域防災学Ⅰ」授業開始</li> </ul> 柴田農林高校川崎校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩沼高等学園川崎キャンパス連携校内行事開始</li> </ul> 管理機関 <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業研修会①</li> </ul>
5月	中新田高校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域産業Ⅰ 加美町商店街フィールドワーク</li> <li>・地域産業Ⅰ 第一次産業見学（学校コンソーシアム委員の牛舎）</li> <li>・第1回学校運営協議会</li> </ul> 柴田農林高校川崎校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩沼高等学園川崎キャンパス連携防災訓練</li> </ul> 管理機関 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム連絡・調整会議</li> <li>・指導主事による中新田高校（科学と人間生活）、田尻さくら高校（科学と人間生活）への遠隔授業視察（CIO訪問の代替）</li> </ul>
6月	岩ヶ崎高校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第1回Iwagasaki Jimoto 大学」開催</li> </ul>

	<p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域産業Ⅰ 第三次産業見学（学校コンソーシアム委員 加美町振興公社）</li> <li>・加美町主催スポーツイベント「ツール・ド・347」運営ボランティア参加</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回地域と川崎校の連絡「実務者連絡会」</li> <li>・川崎町学務課連携活動</li> <li>・川崎町連携全校ボランティア活動</li> <li>・川崎町地域振興課連携活動</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回探究活動研修会</li> <li>・先進校視察（広島県教育委員会事務局 学びの変革推進部 高校教育指導課、広島県立福山誠之館高等学校、広島県立油木高等学校、広島県立東城高等学校）</li> </ul>
7月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩高探究ツアー（防災・減災編）</li> <li>・地域行事ボランティア</li> </ul> <p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年総合的な探究の時間 インターンシップ</li> <li>・地域防災学Ⅰ 学校コンソーシアム委員（加美町危機管理室）による出前授業</li> <li>・加美町ドラゴンカヌー大会参加</li> <li>・第1回学校運営協議会（第一部会）</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釜房みどりの園1学年ボランティア活動</li> <li>・川崎町地域おこし協力隊（SPRING）による1年生「総合的な探究の時間」助言</li> <li>・NPO川崎町の資源をいかす会による1年生「総合的な探究の時間」助言</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業研修会②</li> </ul>
8月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回岩ヶ崎高等学校コンソーシアム</li> <li>・コンソーシアム委員より3年生「総合的な探究の時間」探究成果発表会における指導・助言</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Iwagasaki English Camp</li> <li>・地域行事ボランティア</li> </ul> <p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬面接（学校コンソーシアム委員を含めた同窓会・PTA 主催）</li> <li>・学校コンソーシアム委員を含めた社会人を講師とする「志ゴトーク（2 学年）」</li> <li>・地域スポーツ学 I（ロードバイク）授業開始</li> <li>・地域防災学 I 救命救急講習受講</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎町生涯学習課連携活動</li> <li>・川崎町地域振興課連携活動</li> <li>・川崎町社会福祉協議会連携活動</li> <li>・NPO 学校サポートネットワーク連携活動</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事による田尻さくら高校（地理総合、科学と人間生活、美術 I）への遠隔授業視察</li> </ul>
9 月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第 2 回 Iwagasaki Jimoto 大学」開催</li> <li>・大学教員を招いての国際交流、国際理解に係る講話</li> </ul> <p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校コンソーシアム委員を含めた社会人を講師とする「志ゴトーク（1 学年）」</li> <li>・第 1 回学校運営協議会（第二部会）</li> <li>・個人プロジェクト発表会</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎町地域おこし協力隊（SPRING）による 1 年生「総合的な探究の時間」助言</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業研修会③兼遠隔教育成果発表</li> <li>・指導主事及びコンソーシアム構成員である大学教員による中新田高校（科学と人間生活）への遠隔授業視察</li> </ul>
10 月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩高探究ツアー（歴史・文学・まちづくり編）</li> </ul> <p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加美町合同水難救助訓練参加</li> <li>・加美町主催スポーツイベント「Sea to Summit in 加美」ボラン</li> </ul>

	<p>ティア参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭において HP「加美町お仕事図鑑」発表会、ドローンショー公開</li> <li>・地域防災学Ⅰ 学校コンソーシアム委員よる（消防団）による出前授業</li> <li>・加美町秋まつりフリーマーケット出店</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎町学務課連携活動</li> <li>・川崎町生涯学習課連携活動</li> <li>・川崎町社会福祉協議会連携活動</li> <li>・NEXTCO東日本連携生徒会活動</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>指導主事による宮城野高校（地理総合、地学基礎）への遠隔授業視察</u></li> <li>・第2回探究活動研修会</li> <li>・<u>地域協働・コンソーシアムに関する訪問調査（中新田高校）</u></li> <li>・<u>遠隔授業に関する訪問調査（宮城野高校）</u></li> </ul>
11月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回岩ヶ崎高等学校コンソーシアム</li> <li>・コンソーシアム委員よる2年生「総合的な探究の時間」探究活動中間発表会における指導・助言</li> <li>・EUがあなたの学校にやってくる</li> <li>・地域行事ボランティア</li> <li>・公式SNSを開設し、探究活動の発信開始</li> </ul> <p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回学校運営協議会（第一部会）</li> <li>・地域産業Ⅰ 課題提案型「加美町プロジェクト」授業開始</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎町福祉課及び社会福祉協議会連携活動</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事及びコンソーシアム構成員である大学教員による宮城野高校（数学B）への遠隔授業視察</li> <li>・遠隔授業研修会③兼遠隔教育成果発表</li> </ul>
12月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎのこども未来博ポスター発表会参加</li> </ul> <p>中新田高校</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎのこども未来博ポスター発表会参加</li> <li>・第2回学校運営協議会（第二部会）</li> <li>・地域スポーツ学Ⅰ（ボルダリング）授業開始</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎのこども未来博ポスター発表会参加</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎのこども未来博ポスター発表会（受信校活動報告会兼生徒交流会）</li> </ul>
令和6年1月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンソーシアム構成員である大学教員及びゼミ生1年生「総合的な探究の時間」における指導・助言</li> <li>・みやぎ高校生フォーラムパネルディスカッション代表生徒</li> <li>・先進校視察（郁文館高校、佼成学園高校）</li> </ul> <p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎ高校生フォーラム代表校発表</li> <li>・地域スポーツ学Ⅰ（ウィンタースポーツ）授業実施</li> <li>・地域産業Ⅰ「加美町プロジェクト」提言発表会</li> <li>・「加美町研究」発表会</li> <li>・「加美町プロジェクト」発表会</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カワサキクエスト（総合的な探究の時間）中間発表会</li> <li>・第2回地域と川崎校の連絡「実務者連絡会」</li> </ul> <p>管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生フォーラム発表（受信校の探究活動成果発信）</li> </ul>
2月	<p>岩ヶ崎高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回岩ヶ崎高等学校コンソーシアム</li> <li>・コンソーシアム委員による1年生「総合的な探究の時間」探究活動成果発表会における指導・助言</li> <li>・外部講師を招いての「職員対象探究研修会」</li> </ul> <p>中新田高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回学校学校運営協議会</li> <li>・宮城県雪合戦大会参加</li> <li>・第22回うめえがすと鍋まつり in 加美 出店、親子イベント実施</li> </ul> <p>柴田農林高校川崎校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カワサキクエスト（総合的な探究の時間）成果発表会</li> </ul>

	管理機関 ・第3回探究活動研修会 ・高校生フォーラム発表（受信校の探究活動成果発信）
3月	岩ヶ崎高等学校 ・コンソーシアム委員よる2年生「総合的な探究の時間」探究活動成果発表会における指導・助言 柴田農林高校川崎校 ・社会福祉協議会連携活動 管理機関 ・遠隔教育成果発信

※学校における調査研究の実績のほか、コンソーシアムの活動等についても記入すること。

※遠隔授業システムを活用した教育課程外の取組については、アンダーラインを付すこと。

## (2) 調査研究実績の説明

- ①「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組  
 (受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。)

遠隔授業研修会を全3回実施し、遠隔授業を円滑に進めるための教員の資質能力向上を図った。本県では令和5年3月に生徒1人1台端末環境が整備されたため、第1回目の研修内容は、「1人1台端末及びクラウドを活用した遠隔授業の実施について」とした。第2回目の研修内容は、「クラウド環境下でのポートフォリオの活用と評価の実施について」とした。第3回目は授業公開を行い、1年半の遠隔授業の実践について、その成果及び課題を確認するものとした。また、研究協議も実施し、特に受信校での立ち合い者の役割等について、知見を共有することができた。

以下、遠隔授業の実践からのフィードバックや遠隔授業研修会等で共有された遠隔授業実施に係る主な成果及び課題について示す。(成果：○ 課題：■)

- 電子黒板と書画カメラによる映像を常時適切に組み合わせたことで、対面での授業に比べて、ペアワークやグループワークを多く取り入れることができた。
- 記入したプリントの写真やデータを Google Classroom を用いて提出させたことで、対面での授業と同様に成果物を評価することができた。
- 1人1台端末及びクラウドを活用した遠隔授業を実施することで、生徒の情報活用能力が向上し、端末を活用する一方で、紙媒体の資料を活用して学習を進めるなど、生徒が学習方略を自己選択できるようになった。
- Google Classroom 等に本時の目標と流れと資料を掲載し、授業導入時に簡単に説明を加えたことで、生徒がそれぞれ必要に応じて個別学習に取り組んだり、グループで学習に取り組んだりするなど、生徒は主体的に学習に取り組むことができた。
- 受信校で授業に立ち合う者の役割を明確にすることができた。①「通信等のト

ラブル時に、適切に対応すること」、②「生徒の様子を『記録』に残すこと」、③「授業内外での適切な介入により、協働的な学びを促進すること」の3点は、特に重要な役割であることを共有できた。この中でも②については、配信校の授業者は生徒とのレポートが取りにくいいため、受信校で授業に立ち合う者が、代わりに生徒の実態を細かく把握し授業者に伝えるなどの役割は大きい。

- 評価方法の一部を定期考査の実施から単元テストに切り替えことで、単元ごとの形成的評価を丁寧に実施することができた。
- 統合型教務校務支援システム内の共有機能を活用したことで、定期考査の答案採点に係る配信校と受信校間のやり取りをセキュアな環境下で行い、郵送等によるタイムラグを少なくすることができた。
- どの学校においても円滑に遠隔授業を導入できるよう、通信状況の向上やよりコンパクトな遠隔教育システム等の検討を進める必要があること。
- 遠隔授業を円滑に実施するための校内の体制整備や、実施環境を精査する必要があること。特に時程の共通化や、学校行事（定期考査の時期）のある程度の共通化を図ることがあること。
- 生徒の学習状況をより適切に見取るために、デジタルポートフォリオの導入とその活用方法について、検討する必要があること。

## ②学校間連携を行うための運営体制に関する取組

遠隔授業の実施及び学校コンソーシアムの運営等を円滑に推進ことができるように、管理機関が中心となり運営体制の整備を行った。以下、主な成果及び課題について示す。（成果：○ 課題：■）

- 配信校、受信校、本事業全体について連絡調整を行う「みやぎDUAL-COREハイスクールネットワークコンソーシアム」（以下、MDCCという。）を組織し、学校間の連絡調整を円滑に進めることができた。

### ※構成機関

- ・行政機関 宮城県教育庁高校教育課
- ・高等教育機関 東北学院大学、宮城学院女子大学
- ・授業配信校 宮城県宮城野高等学校、宮城県田尻さくら高等学校、宮城県貞山高等学校
- ・探究的な学びのための学校コンソーシアム  
みやぎハイスクールネットワーク構築事業岩ヶ崎高等学校委員会  
宮城県中新田高等学校運営協議会  
地域と川崎校の連携「実務者連絡会」

- MDCCは、本事業の意思決定の場でもあるが、各学校コンソーシアムの成果及び課題を共有、検討する場にすることができた。

- 高等教育機関に所属する大学教授及び准教授から、遠隔授業並びに探究的な学びの推進に係る適切な指導・助言を頂き、授業配信校及び受信校とで目線を合わせて、事業を推進することができた。
- MDCCの会議の場以外でも、配信校と受信校の間で自主的な連絡調整が活発に行われ、各校での取組状況やネットワークトラブルの共有を円滑に進めることができた。
- 本事業以外において、県立高等学校で設置されている各学校コンソーシアムをまとめるコンソーシアムの在り方について、一定の知見を得ることができた。
- MDCCと各学校コンソーシアムとのつながりや位置関係、また各校に配置されている地域コーディネーターとの関係などを、今後検討する必要があること。

③市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

各受信校で設置している学校コンソーシアムでは、学校コンソーシアムと協働した多くの教育活動が教育課程内外で実施された。以下、主な成果及び課題について示す。(成果：○ 課題：■)

- 学校コンソーシアムと協働した教育活動が数多く実践された。
- 教育課程内での学校コンソーシアムと協働した取組としては、総合的な探究の時間での取組に加え、保健体育科や特別活動、学校設定教科でも取り組むことができ、生徒の資質・能力の向上に資するものとなった。
- 教育課程外での学校コンソーシアムと協働した取組が充実し、教育課程内で学んだことを活かし、実社会でも活用できる成果物作成や地域の小学校、中学校、高等学校を巻き込み活動することにつなげることができた。
- 教員向けの探究活動研修会を3回実施し、探究の指導について情報交換や、生徒のプレゼンテーションに対して実際に行ったフィードバックへの相互評価を行うことで、探究活動に係る指導力の向上が図ることができた。
- 受信校2校で地域コーディネーターが配置され、教職員にはない発想や地域とのつながりが生徒や教員に大きな刺激となった。また、地域コーディネーターの活用の際し、計画的な活用と活用に係るビジョンの共有を学校コンソーシアムと図ることができた。加えて、地域コーディネーターの活用を推進するため、地域コーディネーターへの適切な支援と地域コーディネーター間の連携をはかることができた。(※地域コーディネーター2名は、地元自治体の支援により1名、県単独の事業により1名配置された。)
- 学校コンソーシアム構築までのおおよそのプロセスをモデル化することができ、県単独の事業において活用することができた。
- 受信校は小規模校であるため、教育課程外での学校コンソーシアムと協働し

た取組を推進するために、地域コーディネーターを持続的に確保するための予算及び人材確保には検討が必要であること。

- 総合的な探究の時間や特別活動での取組だけではなく、多様な教科・科目においても学校コンソーシアムと協働し、より質の高い教育活動の実施及び「社会に開かれた教育課程」の実現を検討する必要があること。

## 5. 遠隔授業の実施状況

受信校	教科	科目	遠隔授業を実施した授業回数（対面授業を除く。）
宮城県岩ヶ崎高等学校	地理歴史	地理総合	62回
宮城県岩ヶ崎高等学校	理科	地学基礎	64回
宮城県岩ヶ崎高等学校	美術	美術Ⅰ	60回
宮城県中新田高等学校	数学	数学A	47回
宮城県中新田高等学校	数学	数学B	43回
宮城県中新田高等学校	理科	科学と人間生活	43回
宮城県柴田農林高等学校 川崎校	地理歴史	地理総合	56回
宮城県柴田農林高等学校 川崎校	理科	科学と人間生活	43回
宮城県柴田農林高等学校 川崎校	情報	情報Ⅰ	47回

6. 調査研究の進捗状況、成果、評価（※目標設定シート（別紙様式1 別添4）を添付）  
成果及び評価は目標設定シート（別紙様式1 別添4）のとおりである。

## 7. 次年度以降の課題及び改善点

### (1) 遠隔授業における「協働的な学び」の実践の在り方について

令和5年度は配信校を1校増やし、配信校3校から受信校3校へ、遠隔授業を実施した。また、配信科目も延べ5科目から9科目に増やして実施した。令和4年度当初に見られた遠隔教育システムの不安定な挙動については解消され、円滑に遠隔授業を実施することができた。

令和5年度においては、「遠隔授業における協働的な学びの実践の在り方」を調査研究テーマとし、遠隔授業における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に資する実践の在り方、並びに1人1台端末環境における「協働的な学び」の実践の在り方を検討した。本県では、令和5年3月に生徒1人1台端末環境が整備され、遠隔

授業に関わらず、生徒1人1台端末環境下での授業実践の在り方について、各校で検討してきた。その成果や遠隔授業研修会の知見もあり、今年度より遠隔授業を実践した教員も、当初は戸惑いもあったが、円滑に授業を実施することができた。

令和6年度以降の課題及び改善点としては、1点目は、遠隔授業を円滑に実施するために必要な校内体制の整備や時程の共通化、学校行事のある程度の共通化を図ること、2点目は、生徒の学習状況をより適切に見取るための方法を検討する必要があることである。1点目については、先進校視察で得た知見等を基にしたり、受配信校を近い地域で設定したりするなどして、県単独事業において検討したい。2点目は、遠隔授業や対面での授業に関わらず、クラウドを活用し、成果物やポートフォリオの共有などを図り、それらを活用した評価方法の在り方について、さらに検討したい。

## (2) コンソーシアムと協働した地域探究活動について

令和5年度は新型コロナウイルス感染症による影響が小さくなり、各受信校において学校コンソーシアムと協働した教育活動が多く実践された。教育課程内では、総合的な探究の時間及び特別活動を中心に教育活動の実践が進められた。中新田高等学校では学校設定教科「地域創造学I」を新たに設置し、地域の仕事等をWeb上で紹介する「お仕事図鑑」等の成果物を、実社会と同じプロセスを通して作成するなど、地域課題の解決につながるオーセンティックな学びが実現した。これらの教育活動を通して、生徒は自身の活動により社会を変革、創造することができることを、実感を伴って体験することができた。教育課程外においても、ボランティア活動への参加や探究活動の成果発表、生徒が主体となって実施したワークショップなど、学校コンソーシアムと協働した形で実現することができた。

また、地元自治体の支援及び県単独事業により、地域コーディネーターが中新田高等学校、岩ヶ崎高等学校にそれぞれ1名配置された。教員の発想にはない提案や地元人材とのつながりにより、各校において探究的な学びの更なる充実につながった。

令和6年度以降の課題としては、1点目は地域コーディネーターを持続的に確保するための予算及び人材確保、2点目は総合的な探究の時間や特別活動での取組だけではなく、多様な教科・科目においても学校コンソーシアムと協働した教育活動の実施がなされることである。その改善に向け、1点目については、県単独事業として配置している地域コーディネーターの役割及び業務を明確化することで、活用に係るモデル化を図り、学校教育における地域コーディネーターの有用性を検証したい。2点目については、各教科・科目の目標とスクール・ミッションとを照らし合わせ、学校コンソーシアムと協働することでより高い教育効果をもたらす取組について、検討を進めたい。